

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

Service News サービス・ニュース

蔵書点検が終了しました

当館では、1月17日と18日の2日間にわたり蔵書点検が行われました。蔵書点検とは、年に1回行う、いわゆる「棚卸し」のようなものです。今回も書架に並んでいるすべての本のICタグやバーコードを読み取り、データと照らし合わせながら、正しい場所にあるかどうか、紛失した本はないかなど、スタッフ全員で総点検しました。お休みをいただきご不便をおかけいたしましたが、利用者のみなさまにより迅速で快適なサービスが提供できるよう、今後とも資料の管理に努めてまいります。



ハンディターミナルという機器を使用してICタグやバーコードを読み取ります。読み忘れないように、棚の端から端まで、かなり根気のいる作業です...

●3月のデータベース講座のご案内

日比谷データベース講座 VOL.7

「JP-NETを使って特許調査を学ぶ」

■3月4日(水) 18:30~19:30

■2階図書フロア カウンター前/参加費無料/申込不要

3月の展示情報

※展示内容は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン ■文化財特別展
「千代田の坂と橋—江戸・東京の地形」関連展示 (三角台) (~3/22)

2F オレンジゾーン 「生物多様性と暮らし・経済」(~3/15)
昨年10月に韓国・平昌で国連の生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)が開催され、日本でも国家戦略とされている生物多様性について改めて考えます。

3F グリーンゾーン 「デザイン、ものづくり、日本」NEW! (~6/12)
「日本らしいモノの形」とは何なのかをテーマに、日本の風土に基づいたものづくりや身の回りの製品デザインの歴史と新しい動きについて展示しています。

3F ブルーゾーン 「仮面と素顔」(~4/17)
「仮面」は、素顔を隠すために、あるいは異なる自分になるためにも使われます。今回は、民俗学的な視点だけではなく、「仮面」によって繰り広げられる精神世界について展示しています。

3F ホール 「仮面と素顔」関連展示 (ガラスケース) (~4/17)

わたしの1冊

外国人カメラマンの見た幕末日本Ⅱ

当館スタッフの推薦本を紹介いたします。◆おすすめする人 特別研究室 内川 由季子 小沢 健志 三井 圭司 編 監修

勝海舟、松本良順といった歴史に名を残した人物から市井の人々、街並、観光地などさまざまな写真が収録されていて、歴史の記録としてもアートとしても楽しめます。中でも「プロイセン日本遠征団と写真」は、オイレンブルク伯爵率いる使節団の人間関係や写真師たちの技量、その後の足取りなどを興味深く読み進められます。

山川出版社 / 2014年
西洋人が撮った幕末・明治の日本の写真が収められた一冊。日本における写真と写真技術の受容についても詳しく解説されている。

2F パープルゾーン

【江戸・東京】の本を集めたゾーン

「浮世絵にみる江戸と芸術」



じっくり浮世絵を見てみると、繁栄し始めた江戸時代の社会情勢からゴシップ情報まで、画の中に様々なものが描かれています。現代では日本を代表する芸術であり、鑑賞するものという印象がありますが、当時は庶民に色々な情報を伝える、現在でいう新聞や雑誌のような身近な紙メディアだったのです。浮世絵に興味を持つきっかけとなるような本を様々な角度からご紹介します。(~5/15)

3階ホール ガラスケース

葛飾北斎「富嶽三十六景」の手摺り木版画(復刻版)、4階特別研究室所蔵の歌川広重「名所江戸百景」(復刻版)などを展示しています。

日比谷カレッジ報告

アーカイブサミット2015
総括シンポジウム「アーカイブ立国をめざす！」

■登壇者：吉見俊哉(東京大学教授・副学長) アンドルー・ゴードン(ハーバード大学教授) ほか

あらゆる文化活動の前提となる文化資源の蓄積と活用。21世紀に求められるデジタルアーカイブ構築に必要な著作権等の法制度、資金、人材、事例、現状の課題が提示され、様々な角度から議論されました。締め括りに「アーカイブ立国宣言」として、国立デジタルアーカイブセンターの設立、人材育成、オープンデータ化、孤児作品対策が打ち出され、大盛況のうちに終了しました。

1/26 (月)

「アーカイブサミット2015」関連展示を開催中! (~3/15)



アーカイブに関するキーワードをもとに、関連図書やシンポジウムの登壇者による著作を紹介。



明治後期に使用された足踏みシシンの展示も。

「浮世絵」で江戸・東京を知る

全館で実施中



昇斎一景「東京三十六景 柳原和泉はし」 明治4年 葛屋吉藏版 日比谷図書文化館特別研究室蔵

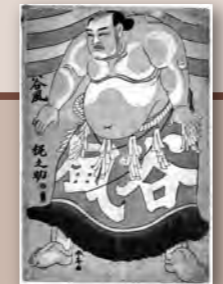


「肉筆浮世絵—出光コレクションのすべて」 出光美術館(2007年)

「暮らし」

当時の町の様子と、人々の日々の暮らしが分かる関連資料も多数展示してあります。また、1階の文化財特別展では、区の歴史遺産のひとつである「坂と橋」にスポットを当てた展示で、町並みの歴史を知ることが出来ます。

■展示場所：1階特別展示室
文化財特別展「千代田の坂と橋」 (3/22)



「谷風颯之助」画像提供「相撲博物館」

3/19 (木) 第30回江戸歴史講座 「大相撲の歴史からみる江戸から明治へ」

講師：竹内誠(江戸東京博物館館長)

江戸時代に歌舞伎や吉原と並び市井の人気を集めた相撲。その大相撲の歴史を江戸期の興行の組織化による安定的な人気、明治初期の文明開化に伴う「相撲禁止論」での危機、そして

風景

気軽に旅ができなかった時代、憧れの名所を知る風景画。広重、北斎だけでなく、多数の絵師が、多くの作品を残しています。斬新な構図で描かれた風景や当時の四季折々の景色がそこには広がっています。

■展示場所：2階パープルゾーン
「浮世絵にみる江戸と芸術」コーナー

人物

店の看板娘、遊女などを描いた美人画、歌舞伎の人気役者を描いた役者絵。当時人気のあった人物を描いた浮世絵は現在のプロマイド的な役割も果たしていました。

※3Fアート情報支援コーナーでは、過去に行なわれた展覧会の図録を多数取り揃えています。見逃した展覧会も図録で楽しめます。

■展示場所：3階ブルーゾーン
アート情報支援コーナー

calendar 開館時間：平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2015年 3月							2015年 4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

お問合せ先：千代田区立日比谷図書文化館
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: http://hibiyal.jp

access

都営地下鉄
●三田線「内幸町駅」 A7出口 徒歩3分
東京メトロ
●丸ノ内線 ●日比谷線 ●霞ヶ関駅B2出口 徒歩3分
●千代田線 ●霞ヶ関駅C4出口 徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分


※当施設に駐車場・駐輪場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

3・4月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

3/7 (土)
マンガとアニメの天才、ウィンザー・マッケイ ～『リトル・ニモ』の魅力に迫る～
講師：小野 耕世 (海外コミック研究者・翻訳家)

アメリカの新聞連載マンガとアニメーションのパイオニア、ウィンザー・マッケイ。彼が残した数々の作品は、世界のマンガ・アニメの歴史を飛躍的に発展させました。日本における海外コミック研究の第一人者である小野耕世氏が、実際のマンガや映像を見ながら、その魅力に迫ります。



■日時：3月7日(土) 14:00～16:00(13:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
■定員：200名 ■参加費：1000円


3/8 (日)
ピースビレッジ第30回 東北復興からみえる、組織と個人のこれから
講師：藤沢 烈 (一般社団法人RCF復興支援チーム 代表理事)

東日本大震災から4年。東北では、未来の社会が必要とする挑戦が続けられています。社会価値の創出を目指す大手企業、地域社会を変革しようとする行政組織。時代の生産者として社会と関わっていく個人。東北での事例をあげつつ、日本社会の今後を考えます。(主催：NPO法人世界連邦21世紀フォーラム)

■日時：3月8日(日) 14:00～16:30(13:30より受付)
■会場：4階スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：3000円(次回予告)
4月11日(土)14:00～16:30 ピースビレッジ第31回「デジタルは人間を奪うのか」

3/11 (水)
霞ヶ関官庁街の景観変化 ―高層化と歴史的建築の保存の視点から―
講師：寺本 英治 (一般財団法人 建築保全センター専務理事)

霞ヶ関官庁街は戦後から半世紀を超える歴史の中で、多くの建物が高層化され景観が変化してきました。そこには関東大震災後に造られた名建築の保存可否か、官庁建築として景観はどうあるべきか等、熱い議論が秘められています。その一端をご紹介します。(企画・協力：NPO法人 建築から社会に貢献する会)




■日時：3月11日(水) 19:00～20:45(18:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
■定員：160名 ■参加費：1000円

3/13 (金)
日比谷コトづくり塾(第10回)日比谷発!最新トレンド発信『動物園・水族館』で地域を元気にする
講師：南 学 (東洋大学大学院客員教授・日比谷コトづくり塾塾長)
土居 利光 (恩賜上野動物園園長・首都大学東京客員教授)
堀 由紀子 (新江ノ島水族館館長・世界淡水魚園水族館「アクア・トク」館長)

「懐かしのデパート動物園」のお話や、地元の小中学生が園長の指導のもとトラのことを伝える活動「うへのトラ大使」など、上野動物園で行われている地域連携や、楽しみながら学習するエデュテインメント型水族館である新江ノ島水族館といった「動物園・水族館」を核として地域が元気になる取り組みを紹介します。(主催：一般社団法人日本経営協会)

■日時：3月13日(金) 13:30～16:30(13:00より受付)
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
■定員：50名 ■参加費：1080円



▶参加申込：電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

3/17 (火)
展覧会への入口講座Vol.13 プリヂェストン美術館×日比谷図書文化館 プリヂェストン美術館の魅力 ―ベスト・オブ・ザ・ベスト展のみどころ
講師：貝塚 健 (プリヂェストン美術館学芸部長)


プリヂェストン美術館で開催する「ベスト・オブ・ザ・ベスト」展に関連した講座です。ルノワール、セザンヌ、ピカソ、青木繁、藤島武二など、1952年の開館以来、60年以上にわたって親しまれてきた「プリヂェストン美術館」といえば、これ！という代表作をご紹介します。



■日時：3月17日(火) 19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)
※千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

3/20 (金)
千代田区民講座 團十郎家十二代 魂の継承
講師：薄井 大還 (写真家)


「伝統の継承」は「魂の伝承」です。想像をはるかに越えた自由のない日々と、艱難辛苦の連続を生き抜く十二代目團十郎丈の姿は、多くの人々に感動を与えました。襲名の2年前から永眠するまでの30年間、カメラを通してその魂に触れた貴重な写真とともに語ります。(主催：NPO法人神田雑学大学)



■日時：3月20日(金) 19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
■定員：200名 ■参加費：無料
※2月20日(金)から千代田区民先行受付開始。区民以外は27日(金)から受付開始。

3/25 (水)
星をたのしむ・春 ～星の和名
講師：皆川 敏春 (星のソムリエ®みたか)
小幡 真希 (星のソムリエ®みたか)


星空と言えばギリシャ神話に由来する星の名前や星座がほとんどですが、日本にも古来より名づけられてきました。定員に達した為、意外に知 受付を終了しました。星のソムリエ®と楽しむたべ。4月4日の皆既月食や、講座当日に見える星空をあわせて紹介します。



■日時：3月25日(水) 19:00～21:00(18:30より受付)
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円

3/26 (木)
読書の楽しみ(全3回) 第3回「読書の技法」
講師：小林 康夫 (東京大学教授)

読書は簡単と言えば簡単で、誰にでもできます。しかし、読み方は決して一通りではありません。ひとつのテキストにも色々な読み方があり、時に表面の意味を超えた、とても深い世界を垣間みることもできます。今回は文学をより楽しむための技法を、日本近代文学の小説を例にとって考えます。ストーリーを追うだけではない、小説世界の不思議を楽しむための技法への招待です。(主催：上廣倫理財団)



■日時：3月26日(木) 18:30～20:00(18:00より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名
■参加費：500円(千代田区民及び学生は無料) ※千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるもの、学生の方は学生証をお持ち下さい。

3/31 (火)他
扉を開いて、広大なクラシック音楽の世界へ!(全2回) ～ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2015を前に～
講師：オヤマダアツシ (音楽ライター)


聴くだけでも楽しめるクラシック音楽ですが、少しの「知識」を得ることで目の前の世界が広がります。歴史を辿って「バロック音楽」「ロマン派音楽」などの区分を知り、そこで活躍した11人の作曲家を知れば、重い扉の向こうに広がる世界も自由に歩けるはず。基本をマスターしてクラシック音楽を楽しむ、初心者向けガイドです。(協力：東京国際フォーラム/ラックスマン/フォステクス/ナクソス・ジャパン)



■日時：3月31日(火)第1回 時代別、クラシック音楽のしくみを知る
4月7日(火)第2回 これが作曲家の「カリスマ・イレブン」
いずれも19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
■定員：各回200名 ■参加費：各回500円

4/1 (水)
日比谷で学ぶ和の文化 桜が教えてくれたこと ―桜と桜にかかわる方々との出会いの中で私が学んだこと―
講師：黒田 杏子 (俳人)

四季折々の移ろいは、美しく咲く花からも感じることが出来ます。なかでも日本人がもっとも好み、心惹かれる花、それは桜。長年にわたり日本列島の桜の木に逢いに出かける日々を重ね、「桜と巡礼」の俳人として知られる黒田杏子氏より、自らが歩き、出合った「日本人と桜」について、俳句作者の立場からお話いただきます。



■日時：4月1日(水) 19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：60名 ■参加費：1000円

4/9 (木)
展覧会への入口講座 Vol.14 東京国立近代美術館×日比谷図書文化館 ここが面白い!片岡球子の人と作品
講師：中村 麗子 (東京国立近代美術館主任研究員)


日本画家・片岡球子(1905～2008)の、約80年にわたる画家人生と作品を、数々のエピソードや制作の裏側を交えてご紹介します。戦後の日本画界でひととき目を引くエネルギーギッシュで個性的な画風がどのようにして生まれたのか、その秘密に迫ります。



■日時：4月9日(木) 19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名
■参加費：1000円(千代田区民500円)
※千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

4/13 (月)他
オペラをもっと楽しむ方法(後期)(全6回) 第1回「台本から楽しむオペラ」
講師：辻 昌宏 (明治大学教授)


さまざまな視点で、もっとオペラを楽しむための知識満載の連続講演会。後期の第1回は「台本から楽しむオペラ」と題して、オペラの重要な要素である「台本」にスポットを当てて、明治大学教授の辻昌宏先生にお話しいただきます。(主催：フェニーチェ劇場友の会)



■日時：4月13日(月) 19:00～20:30(18:30より受付)
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
■定員：各回60名 ■参加費：7000円(6回分)、各回1500円
〈第2・3・4・5・6回予告〉
5月12日(火)「現代オペラはこうして楽しむ」堀内 修 (音楽評論家)
6月12日(金)「バロックオペラの魅力」井内 美香 (音楽ジャーナリスト)
7月13日(月)「オペラ歌手のひとりごと」大貫 裕子 (藤原歌劇団ソプラノ歌手)
8月6日(木)「オペラ指揮者のお仕事」松岡 究 (東京ユニバーサル・フィル常任指揮者)
9月8日(火)「知られざるオペラを楽しむ」岸 純信 (オペラ研究家)

4/18 (土)
谷崎潤一郎の恋文を読む
講師：千葉 俊二 (早稲田大学教育学部教授)


今年1月に刊行され話題を呼んでいる『谷崎潤一郎の恋文』。その中から興味深い数通の手紙をとりあげ、和紙に書かれた筆墨に作家の人間性を見、あわせて「蘆刈」「春琴抄」などの昭和初年代の名作との関連に言及します。



■日時：4月18日(土) 14:00～15:30(13:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名
■参加費：1000円(千代田区民500円) ※千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

4/22 (水)
『不思議の国のアリス』刊行150周年記念講演会 アリスの話はつきない ―英語学者と旅する不思議の国―
講師：安井 泉 (筑波大学名誉教授、日本ルイス・キャロル協会会長)

世界中で150年にもわたって読み継がれている理由は、「ことば」のおもしろさにあります。英語のことばにこだわり、やさしくゆかいに、そしてふかいくことばを読み解きながら物語を楽しみます。知的興奮の世界は、作品を育んだビクトリア朝の文化へも向かいます。



■日時：4月22日(水) 19:00～20:45(18:30より受付)
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
■定員：200名 ■参加費：1000円

古文書塾でらこや 体験講座

「古文書塾でらこや」は古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。4月期の開講に合わせ、この度古文書の世界に無理なく入っていける「体験講座」をご用意いたしました。実施日は下記の通りです。まずは体験講座をお試ください。

	講座名	曜日・時間	体験講座実施日
入門コース 120分	古文書のいろは 筆字のくずし字	(火) 10:10～	3/10 3/31
		(日) 13:30～	3/10 3/31
		(木) 13:30～	3/12 3/26
		(金) 18:30～	3/20 3/27
	いろはの次 一大江戸大変	(月) 18:30～	4/6
本科コース 120分	文人画と碑文―掛軸を読む	(月) 18:30～	3/23
	武家文書を読む 一老中みてる幕府官僚事情	(水) 13:30～	3/25
	江戸のコミック(黄表紙)と滑稽本を読む	(金) 18:30～	3/20
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(応用編)	(土) 13:30～	4/11
特別講座 90分	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	3/31
	浮世絵を読む	(水) 10:10～	4/1
	くずし字で読み解く茶の湯の伝書	(木) 13:30～	4/2
	江戸を楽しむ一統・江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	4/2
	平賀源内に江戸を読む一蘭学者の東西ネットワーク	(金) 13:30～	3/27
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土) 10:30～	4/11
	幕臣成島柳北の日記を読む一若き儒臣からみる幕末事情	(土) 14:00～	4/4
【翻字者育成講座】ハーバード大学美術館蔵「源氏物語 蜻蛉」を読む	(木) 18:30～	3/26	

■参加費：各回1,000円 ■会場：4階セミナールーム(会議室)
■資料請求・体験講座のお問合せ：電話(03-3502-3340)日比谷図書文化館代表
古文書塾でらこや担当迄

特別研究室 ミニ通信

特別研究室企画展示
「内田嘉吉文庫が伝える 日本統治期の台湾」
▶3月15日(日)まで開催中

台湾総督府民政長官、台湾総督を務めた内田嘉吉の蔵書には多くの台湾関連資料が残されています。その分野は日本統治期の台湾の建築物や街並の写真が収められた『台湾拓殖画帖』や書画大観から八田與一による水利事業として知られる『嘉南大圳新設事業概要』、行政資料等まで多岐にわたります。これら内田嘉吉文庫所蔵の台湾関連資料のほか、内田嘉吉と台湾野球の関わりを示すエピソードのパネルなどを通じて、台湾における日本の植民地統治期の歴史を紹介します。

